

異例のヒット「ぼくの色、見つけた！」

60代でデビューした児童文学作家、志津栄子さんの「ぼくの色、見つけた！」（講談社）が刊行後約1年で8万部を超える異例のヒットとなっている。「天職」だった小学校の教員を自己免疫疾患で辞し、現在は酸素を吸入しながら執筆。「私の物語で救われる子が1人でもいたらうれしい」。子どもたちのためになる物語を書き残したいとの思いが生きる希望だ。

救われる子ども 1人でもいれば

児童文学作家・志津さん

「ぼくの色」（絵・末山りんさん）は、昨年5月刊行。色覚障害がある小学生の信太朗の成長を描く。自身は困っていないの

日、かつて画家を目指していた母の実家でゴッホの画集を発見。祖父の「ゴッホは色覚障害がいたってんじやないか」という説があるんだ」という言葉をきっかけに、信太朗に夢が生まれる。



「私はもう遠くへ出かけられないけど、物語の登場人物が出かけてくれる。それがうれしい」と話す志津栄子さん

心の動きや会話、リアルに

信太朗のクラスで、カマキリの卵をふ化させるシーンがある。飼育箱に敷いた草に隠れる保護色の「カマキリの赤ちゃん」たちを、病を押して色覚障害の当事

「学級通信」作り。けんかをしたことも、いじわるをしたことも、率直に記すことが心を育む。そう考え、勤務時間外に編集し、本に記す。私生活をもささげて配布。私生活をもささげた記録が、物語の背景になっている。教員の仕事にやりがいを感じていたが、2005年に悪性リンパ腫と診断さ

設問

【1】志津さんの作品「ぼくの色、見つけた！」について、記事を読んで次の問いに答えましょう。

(1) 信太朗の色覚障害を心配する母親は信太朗に何と言いましたか？

(2) 信太朗の夢が生まれるきっかけになった画家の名前は

【言葉の意味】
自己免疫疾患…免疫システムが誤って自分自身の細胞や組織を攻撃する病気。
特長…特別の長所。他に比べて優れている点。
(類義語) 特徴…他と比べて特に

目立つ点。
色覚障害…色の見え方や色の区別が一般的な人と異なる状態。具体的には、色の違いが分かりにくかったり、異なる色が同じ色に見えるたりすることが特徴。
特殊能力…普通の人にはない特別

な力やスキル。
発達障害…心身の機能の発達に、疾患・遺伝・環境などの原因で困難である状態。人によって障害の程度はさまざまで、一人一人の特性に応じた配慮や支援が重要となる。

何でしょう？

(3) 草に隠れる保護色の「カマキリの赤ちゃん」たちを見分ける信太朗の色覚障害を漢字4文字で何と言い換えているでしょう？

【2】「ぼくの色、見つけた！」の作者志津さんについて、記事を読んで次の問いに答えましょう。

(1) 志津さんの作品の子どもたちの心の動きや会話の描写がリアルな理由を志津さんはどのように説明しているでしょう？

(2) カマキリの卵をふ化させるシーンを書くために志津さんはどんな人に取材したでしょうか？ 三つ見つけて書きましょう。

(3) 志津さんはどんな思いで物語を書いているのでしょうか？ リード（1段落目）から二つさがして書きましょう。

【発展課題】「ぼくの色、見つけた！」を読んで、友達と感想を話し合ったり、感想文を書いたりしてみましょう。